

研究所だより

第448号
2022年10月11日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが 見つけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 見つけた
目隠し鬼さん 手の鳴る方へ すましたお耳に かすかにしみた
呼んでる口笛 もずの声
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 見つけた ”



『ちいさい秋見つけた』 童謡・抒情歌 1955年(昭和30年)

～実りの秋～

今年の9月を振り返ると台風が7つ発生しました。2016年以来のことだそうです。毎週末、台風が日本列島に襲来し、記録的な大雨などをもたらしました。特に9月18日には大型で非常に強い台風14号が勢力を維持したまま鹿児島に上陸しました。上陸後は進路を東よりに変え、陸上を北上したことで勢力が衰えましたが、依然大型の勢力を維持しながら日本列島を縦断しました。長時間にわたって暴風や大雨が続いたため、各地に土砂災害や増水・浸水、倒木などの被害をもたらしました。教育センターでは古い鉄製のフェンスが強風により傾き、三崎では消防屯所のシャッターが強風に煽られ、めくってしまうなど、自然の猛威を強烈に思い知らされました。

暦の上では8日は“寒露”「野草に冷たい露が宿る」という意味です。この頃は、秋も深まって山では紅葉も色づき始めると言われています。吹く風や周りの景色は着実に秋色に変わりつつあります。

季節の変わり目ですので、健康にはくれぐれもご留意ください。県内の新型コロナウイルス感染状況は、10月に入り減少傾向ですが、地域によってはまだ逼迫した状況が続いております。これからも一人ひとりが状況を把握し、引き続き基本的な感染防止対策（マスク、手洗い、うがい、3密回避、体調の管理）の徹底を心がけましょう。

(月刊日本教育 令和4年8月号) から

GIGAスクール構想 一人一台端末時代の学校づくり

第14回 端末活用の視点の行きつくところは授業論

玉置 崇 教授(岐阜聖徳学園大学教育学部)

ある中学校で社会科授業を参観しました。情報端末を日常的に活用しているので、どの生徒もサクサクと使っています。

実は、一年前にこの学校の社会科授業を見て厳しいコメントを残してきたので、その後が気になっていたのです。授業は大きく変容していました。今回は、まずこのことを紹介します。

(((生徒に調べさせている授業

昨年度も、生徒は端末を使い、ネットである事柄を調べていました。その様子を見て、私は、生徒が教師に調べさせられていると感じました。黙々と調べているからです。自分で調べたり、確かめたりしたことがあれば、それが見つかったときには、少なからず声が上がってもいいように思うのです。

そこで、授業者には「生徒は自ら調べたいのではなく、教師の指示を受けて調べているだけのように見えます」と、授業の在り方そのものに疑問を呈しました。新たな試みも入れての挑戦的な授業でしたので、そのことも大いに評価しました。ところが、授業者に指摘した事柄だけを重く受け止めたようでした。「しまった！うまく伝えることができなかった」と深く反省しました。一年前ですが、鮮明に記憶に残っていました。

(((自ら調べよとしている生徒の姿

今回の授業は、昨年度と明らかに異なりました。調べる前に、個々の生徒に「はてな？」を生み出していたからです。

教師の投げかけに対して、ある生徒が「この国の人は〇を食べているのでは？」と発言しました。それを聞いた何人かが、「〇なんて食べるはずがない」と呟いたのです。さらに、「図鑑で〇を食べているのを見たことがある」という発言があり、調べてみようと言う空気が教室に生まれました。

調べるときの第一資料は「教科書」、次に「資料集」、そして「ネット」というルールにしたがって、生徒は一斉に動き出しました。教科書や資料集にはそれに該当する箇所がないようで、多くの生徒がネット検索を始めました。

「やはり〇を食べているよ」

「それどこサイト？」

「本当の情報なのかわからないよ」

などと、声も上がりました。まさに生徒が自ら調べようとする姿がそこにありました。だからこそ、つぶやきが生まれたのです。

(((保健体育授業での端末活用

保健体育の授業では、振り返りのときに情報端末が活用されていました。それぞれの振り返りを読みながら、自分の次の目標を伝え合っていました。日常的に端末利用がされていますので、体育館においても活用はごく自然に行われています。

画面を読み合い、それをもとに互いに顔を見て、写真の生徒のように自分の思いを手の動きでも表現しながら話し合っていました。

さりげない風景ですが、顔を見合いながら話し合っていることで、コミュニケーションの基本が大切にされていると感じた場面です。端末を前にすると、端末を見たまま話している姿をよく見るからです。

体育館には、二枚のホワイトボードがあり、そこに教師の書き込みがありました。

一枚は、この単元における授業計画です。それを見ると、今日の授業の単元での位置づけがわかります。また、今日の授業のあと、何時間の授業が予定されているかがわかり、自分たちで練習計画を立てるときの参考資料とすることができます。

もう一枚のホワイトボードには、前時での生徒振り返りから代表的な書き込みが示してありました。「甘い球に気をつけたい」という生徒記述を示して、「甘い球とは？」という教師の書き込みもありました。教師のゆさぶりを感じた記述です。振り返りが次の授業に生かされていることがよくわかりました。

社会科や保健体育の授業を見て、この学校での端末活用の視点は、活用の有無を超えて、授業論の域に達したと確信できました。



＝第4回教研推進委員会＝

10月7日（金）に第4回教研推進委員会を開催しました。各校からの貴重な意見を基に、今年度の一日教研についての総括と次年度の一日教研の内容等について協議を行いました。協議内容（抜粋）について報告します。

1. 協議（抜粋）

（1）一日教研（8/3）の反省

①期日

- ・この時期で良い（適切）。

②内容

午前：全体会（開会行事・講演「学校のリスクを見える化する～部活動改革から働き方改革まで～」）
（小）

- ・講演内容（働き方改革・リスク管理）が良かった。特に働き方改革には具体的にどう取り組めばと思っていたが、他県の取組等、参考になるものが見られて良かった。
- ・働き方改革を推進していくうえでのヒントをたくさんもらった。
- ・普段は呼べない講師が呼べるなら来年度もオンラインでの実施を希望する。

（中）

- ・全体会は来年度も今年のような方法で進めたらいいのではないか。

午後・部会

（小）

- ・半日教研の指導案検討が主であったが、実践交流で各校の取組が聞けて良かった。参考にできるところは9月から取り入れたい。

- ・理科部会は、講師（お茶の水女子大学）に来ていただき、実際に使える授業例をたくさん学ぶことができて良かった。

- ・夏のフィールドワークは大変でしたが内容的には良かった。

（中）

- ・大学からの出前授業で講師が来てくれたので大変有意義だった。

③会場

- ・オンライン中継の講演であれば、清水小・中学校のように自校で見られるようになるといい。

会場の準備・集合の心配が軽減し良いのでは。

- ・開会行事をペーパーで配布して、リモートで行っても良いと思う。

- ・3会場での開催が良いと思う。

④来年度に向けて

- ・希望分野や講師について協議しました。

協議の結果、

推進委員会では絞り込むことができないので、再度全学校の教職員にアンケートを実施し、その結果を基に絞り込み、決定することになりました。

（2）2023年度一日教研について

今年度の一日教研の総括の結果、下記の日程等で承認されました。

①期日：2023年8月2日（水）

②会場：3分散会場（中央公民館、清水小、清水中）

③講師：調整中（アンケート調査集約後に決定）



～第1回学力向上検討委員会～

9月22日（木）に第1回学力向上検討委員会が開催されました。検討委員会の構成メンバーは、校長会を代表して下川口小：永野 美華子校長、清水中：斧川 哲也校長、研究主任を代表して清水小：岩井 優子教諭、清水中：橘 智子教諭、教育委員会の宮上 美智子指導主事並びに研究所の谷岡・勝間の7人です。今年度の委員長に永野校長、副委員長に斧川校長が選出されました。

協議では、はじめに設置要項等の確認をし、（1）令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について各校の分析状況について、（2）今後の学力向上に向けた取組について、（3）令和4年度高知県学力定着調査に向けて、（4）その他 更なる学力の向上に向けた課題と今後の方策などについて話し合いました。

＝協議内容＝

（1）各校の分析状況について（小中学校の提出資料から）

自校の学力調査の結果を、①『全体の傾向（全国・県と比較、学級の実態）』、②『分野ごとの傾向（問題内容・領域・観点の強み・弱みの把握）』、③『正答率〇〇%以上の問題の焦点化（成果がみられる内容）』、④『正答率〇〇%未満の問題の焦点化（課題のある内容）』、⑤『課題を捉える（課題であった問題の分析）』、⑥『改善策を考える（学習指導要領解説で該当指導内容の確認・具体的改善策・改善策の共有）』、⑦『実践する（日々の授業実践、改善状況の進捗管理、新たな改善策の実践）』の7項目で分析されていました。協議では、土佐清水市全体の結果をもとに、国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、算数・数学では「考察を記述する問題や目的に応じてその意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題など「記述式」の正答率が低い。授業の中で着眼点や考察を大切に、理論的に記述する活動（小）、思考・判断・表現させる場面を取り入れた授業改善（中）が急務であるなど、今後の学力向上に向けた取組について話し合いました。

（2）今後の学力向上に向けた取組について

学力調査で大きく伸びている学校は、授業改善が進んでいる。授業改善については授業改善プラン（PDCAサイクルの徹底）、授業づくり講座の学び、授業アイデア例（西部教育事務所）の活用、加力・家庭学習ではタブレットの活用、デジタルドリル、ダントツシートの活用などが大切であることを確認しました。

（3）令和4年度高知県学力定着状況調査について

小学校 令和4年12月6日（火） 4年：国語・算数、5年：国語・算数・理科 質問紙

中学校 令和4年12月6日（火） 国語・社会・数学

12月7日（水） 理科・英語 質問紙

* 出題予定範囲の確認（計画的に指導）

（4）その他

①更なる学力の向上に向けた課題と今後の方策

- ・各校で分析したことを実践・検証し、達成率を全校で確認する。
- ・日々の授業を確認する。

②英語デジタル教科書の活用について

③「外国語教育はこう変わる！」新着動画の活用について

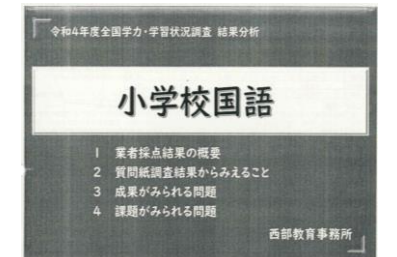
* 技能統合を意識した活動

* R5年度全国学力・学習状況調査に向けて

（「話すこと」：タブレット操作の徹底）

④「教職員ポータルサイト」（西部教育事務所）の活用について

・学力向上研究主任会（齋藤先生の講話・板書・グループ協議のシート）



「結果分析の活用（西部教育事務所）」

